

■知的障害のある子どもへの実践事例

「読みたい！」気持ちを高める マルチメディアDAISY図書

京都府立南山城支援学校
中川 美夢

はじめに

本校でマルチメディアDAISY図書の使用が始まった頃は、音読指導や言語指導の限られた場面の活用でしたが、少しずつ全校に活用が広がってきました。

また、その際にiPadをアップルTVとWi-Fiを活用して、無線で大型テレビやプロジェクターに映すことで、より子どもたちが活用しやすくなりました。

学級の実態

知的障害のある中学部2、3年生の4人学級です。発達年齢は、おおよそ2～3歳程度であり、聴覚障害や自閉的傾向のあるダウン症の生徒もいる集団です。

自分の思いが育ってきて、発語も多くなり、自分の気持ちを言葉で伝えてくる生徒もいますが、直接的な行動で伝えてくる生徒もいます。聴覚障害の生徒は、ほとんどの平仮名は発音できるが、文字と実物の一致が難しいです。

授業への取り組み方については、ど

の生徒も「一番にやりたい」、「ほめられたい」という気持ちが強く、積極的に活動に参加することができます。苦手な活動に対しても、友だちの姿や友だちからの声かけを支えにしながら、取り組むことができるようになりつつあります。

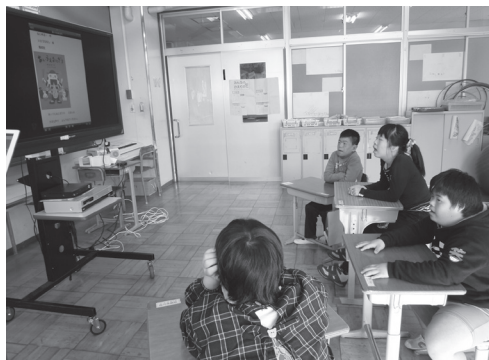


国語の学習場面で

普段から大型テレビを活用した授業を実施するのですが、大型テレビやiPadを教室へ持っていくと、「おお～っ！」と期待感が高まります。

今回の実践では、身近な言葉や短い文章を声に出して読むことをねらいに、よく知っている絵本やお話から『あいうえおにぎり』と『さるかに合戦』の読み聞かせを行いました。

『あいうえおにぎり』は、テンポの良い短い文章であり、かつ読み上げている文章が色の変化により明確に示されるので、生徒たちも一緒に「あいうえおにぎり～」と大きな声を出して読んでいました。



一人ずつにiPadを渡してみると、読み上げている箇所を目で追いながら、ナレーションに合わせて一緒に声を出していました。

また、繰り返し読むと、だんだん読み上げスピードを速く設定しても、上手に読むことができました。読み上げスピードを生徒の実態に応じて変えることができるので、大変使いやすいです。



『さるかに合戦』の読み聞かせの際には、さるや石臼の声の真似をしてみたり、柿を木から落とす時の擬音語を出してみたりしながら、読み聞かせに集中していました。読み終わった後に、登場人物を発表し合い、言葉で確認しました。言葉が出にくい生徒には、絵カードをいくつか用意して提示すると、正しい登場人物だけを選ぶことができ、理解していることが確認できました。





まとめ

マルチメディアDAISY図書の魅力は、それぞれの子どもの学習課題や障害の種別に応じて使えること、文字が読めない人も読書を楽しめることだと思います。将来的に余暇の充実につながるツールでもあると思います。マルチメディアDAISY図書が、より広く社会に広がってくれることを期待しています。

